

留学報告書 II (2024 年度留学生)

塾内在籍校・学年（派遣時）	慶應義塾湘南藤沢高等部 6 年
留学先校名	Phillips Academy Andover
留学期間	2024 年 9 月から 2025 年 6 月まで

留学を振り返って

留学に行く前に期待していたこと、心配していたことはありましたか。実際に行ってどのように変わりましたか。

留学に行く前には、新しい出会いに期待もありつつ、最終学年で入学する留学生という立場で学校の環境に溶け込めるかどうか、友達ができるかどうかとても不安でした。初めての海外生活だったこともあり、同世代の生徒との会話に馴染めるかという心配もありました。留学初期は友達の会話が聞き取れなかったり、内容が理解できず苦笑いで終わったりということもありましたが、現地で文脈を理解していくに連れて、友達との深く、終わりが無いほど盛り上がる会話は Andover の生活でも最も好きなパートとなり、心配は不要だったと分かりました。友達は全体的にとってもフレンドリーで良い新しい生徒や留学生にも理解・興味があるため、友達の輪を広げるのはとても簡単で、こちらも不安を覆すこととなりました。

また、言語の壁から授業においていかれるのではという不安もありましたが、渡航してみると生徒も先生からも必要な時にたくさんのサポートをしていただくことができました。特に、授業内外で先生と課題についての疑問や悩みなどを話す時間などが意図的に取られており、自分の疑問や不安を聞いていただける機会に恵まれ、後期の方は授業に対する不安もなく生活することができました。

クラブ活動や課外活動など、学業以外の活動について教えてください。

スポーツ：
秋学期はクロスカントリー、冬学期は陸上の長距離、春学期はアルティメットフリスビーをしました。どれもクロスカントリーとアルティメットは Varsity チームで練習することができました。各学期スポーツが必須であり、音楽や芸術に取り組みたい子も何かしらのスポーツ(犬の散歩やヨガ、中国舞踊、演劇、自分でジム通いというオプションもありました！)を選択します。私は全く経験のないスポーツをあえて選んでみましたが、素晴らしいチームメイトにも恵まれ、とても楽しく熱中することができました。また、毎週末の試合などで様々なボーディングスクール巡りができたのも良かったです。

ボランティア：
秋学期のみ、Broad Leaf Pen Pal に参加しました。隣町の Lawrence という恵まれない家庭が多い地域の子供達と週に1回の手紙交換をするという活動でした。冬、春学期はスポーツ・クラブ活動と時間が重なってしまい参加できませんでした。

クラブ活動：
活動頻度としては、1〜2 週間に 1 回 meeting があるくらいなので、様々なクラブに所属してみました。以下が主なものです。これら以外にも、友達が主催するクラブに遊びに行ったりもしていました。これまでに経験したことがないクラブも、参加するだけで予期しない学びを得たりすることができるので最初はなるべく多めに参加するようにお勧めします。

日本の文化を広げることが目的のクラブ。白玉を作って **Fundraising** したり、日本語の授業を受けている生徒の宿題を助けたり、カラオケセッションなどをしました。日本の学校から来た日本人は珍しい存在とのことで、**Board members** の 1 人となりました。

・K-pop club

友達に誘われて入ったダンスクラブです。ダンスの経験があまりなくても、振りを覚えて **Andover/Exeter**(ほぼ早慶戦)の前夜祭や **Andover Dance festival** などのステージでパフォーマンスする機会がありました。一緒に練習した友達との繋がりができた場所でした。

・Philo

Public Speaking、主にディベートやスピーチの練習をするクラブです。**Andover** には **Public Speaking** に長けた生徒が沢山いて、国レベルの賞をとっている生徒も沢山います。私は、英語を大勢の前で喋る恐怖感をなくしたい！説得力のある素敵なスピーチができるようになりたい！という軽い気持ちで参加しましたが、最初はそのような生徒の中で、辿々しくゆっくりとしか喋れない自分には、大きな劣等感を感じました。そんな中、冬休みに外部のスピーチコンテストに一回だけ声をかけていただき、参加しました。少し変わったコンテストで、**After -dinner** スピーチという観客を笑わせるスピーチを作らなければならず、自分がアメリカ文化で困惑したことについて発表しました。ジャッジの方々に笑わせることができた際には、挫けずクラブに参加し続けてよかったという達成感を感じました。

・Skating coaching

これはクラブではなく、**Andover** のキャンパス内にあるスケートリンクで時間がある際に自主的にやっていたものです。知り合いになったスケートコーチに興味があるか聞かれたのがきっかけで、3 歳ほどの子供達のクラスを教える手伝いをしていました。

勉強の進め方や進学や将来について、アドバイザーや学校の先生と話す機会がありましたか。どのようなアドバイスをいただきましたか。

まず、**Andover** では生徒 6 人ごとのグループに専属のアドバイザーが割り当てられており、その先生と学期ごとに取りたい授業について調整していました。その先生から **Andover** で人気な授業や先生を聞いて選んだ授業もあります。また、私が **Andover** でしか取れない授業を取りたい、という意思を理解してくださった先生だったため、その前提でどんな授業を取りたいか話す機会があったことは新たな科目に挑戦する上での後押しにもなりました。さらに、彼は物理の研究者として渡米したスペインから来た、元留学生という立場を経験したことがある先生だったため、自分がなぜアメリカで勉強することにしたのか、様々なキャリアを経た理由などを話してくださり、その時目の前にある機会を大事にするべきだよ、という助言をいただきました。また、ちなみに私のグループにいた生徒は全員 1 年のみ世界各国から来た留学生だったため、アドバイザーの先生はハーバード美術館や遊園地、ファストフード店に連れてってくれるなど、アメリカならではの経験をさせてくれるなどの学業外でのサポートもしていただきました。他には、生徒の多くが課外活動、様々な授業、スポーツなど多忙な学業生活を送る **Andover** には、**Academic Skills Center(ASC)**といって、学業面で悩み事がある生徒がいつでも相談できるサポートがありました。私も入学 2 ヶ月後あたりに授業の課題の多さと課外活動のスケジュール管理が難しいと感じ、**ASC** のアドバイザーの方とお話をさせていただきました。そこでは、デジタルカレンダーをうまく使い、スケジュールを視覚化する方法などを教えていただきました。その方法はそれ以来愛用しています。

また、帰寮時に **House Counselor** の方と **Sign-in** として顔を合わせることが義務付けられているのですが、私は自分の寮の **House Counselor** と話す時間が大好きで、よく **Office** に 20 分ほど居座り、将来の進路の悩みなど聞いてもらっていました。その先生には、なぜ数学の先生になったのか、大学院に行ったのはなぜか、などの話してもらい、大人になって学びたいことや新たに将来やりたいことが見つかった場合、学び直すことも可能だよ、という助言をいただきました。

さらに、秋学期の初めに **Dean of Studies** という生徒の学業を管理する **Office** に、自分がとれる授業のレベル、また他の授業を取りたくなった時のための変更方法などを聞きに行きました。その時に相談させていただいた **Dean of Students** の **Faculty** の 1 人の方が、初めて日本から来た留学生ということでその後も定期的に **email** で最近学校はどう？と確認してくれたり、スポーツの大会を見に来てくれたり、またその方の **office** で学校内外にあるプログラムについて相談をさせていただいたりなど、常に気にかけてくださった方がいました。アドバイスだけでなく、そのような精神的なサポートは勉強に励むモチベーションにもなりました。

このように、**Andover** は周りの大人に助けられるが受けられる場面が多く、それぞれの方が自分にとってメンターとして **Andover** での学業に慣れる上で、また将来について考える上で、様々な良い影響を受けることができたと思っています。

今後の派遣留学生へのアドバイス

塾内選考前にどのような準備をしていましたか。

塾内選考前は、成績、英語、課外活動の 3 つの点を意識して努力していました。私は必ずしもトップの成績ではなかったですが、留学を実現させたいという思いから、疑問があれば友達や先生に質問をする、テスト勉強を入念にするなど自分ができる範囲の努力をするようにしていました。

また、長期の海外生活経験はなかったため、派遣留学が要求する英語要件に達するための英語学習にも多くの時間を費やしました。中 3、高 1 の間は学校では英語は一般クラスにいたため、定期テストや課題でなるべくいい成績を取ることを軸とし勉強していました。この時のレベル感でいうと、中 3 で初めて英検を受け、準 2 級を取得したところからのスタートでした。しかし、この時に学校の授業の文法などをしっかり身につけておいたことはその後の **TOEFL** 対策や **Andover** 受験時にも助けになりました。高校生になってからは派遣留学をしたいという気持ちが高まったため、**TOEFL** のスコアアップを意識した勉強を主にしていました。通学時に単語帳の暗記をしたり、休日にオンラインで無料の模擬試験を探して繰り返し受けたりして、自分の足りない部分に気づけるようにしました。また、スピーキング、リスニングが特に難しいと感じていたため、お風呂や散歩中に **TOEFL** 音源のリスニングをそのまま口に出して真似するという練習でそれらのスキルアップを目指していました。

ここまで読むと留学前の私は勉強が好きな人のように聞こえてしまいましたが、高校生として、学校での楽しいことに関わるように意識していたのも、派遣留学志願時に予期せず役に立ったと思います。私は学外で活動するスポーツをしていたため、授業時間外で学校の友達と関わる機会が少なく、寂しく感じていたため、文化祭や生徒企画などに積極的に手を挙げ参加するようにしていました。留学をする際に大事になってくる点として、「慶應、そして海外の学校のコミュニティにどのような貢献ができますか」ということを意識しなければなりません。高校生活の中で、それまでの経験やそこから学んだことがある場合、学校生活を充実させることが出来るだけでなく、強みになると思います。

